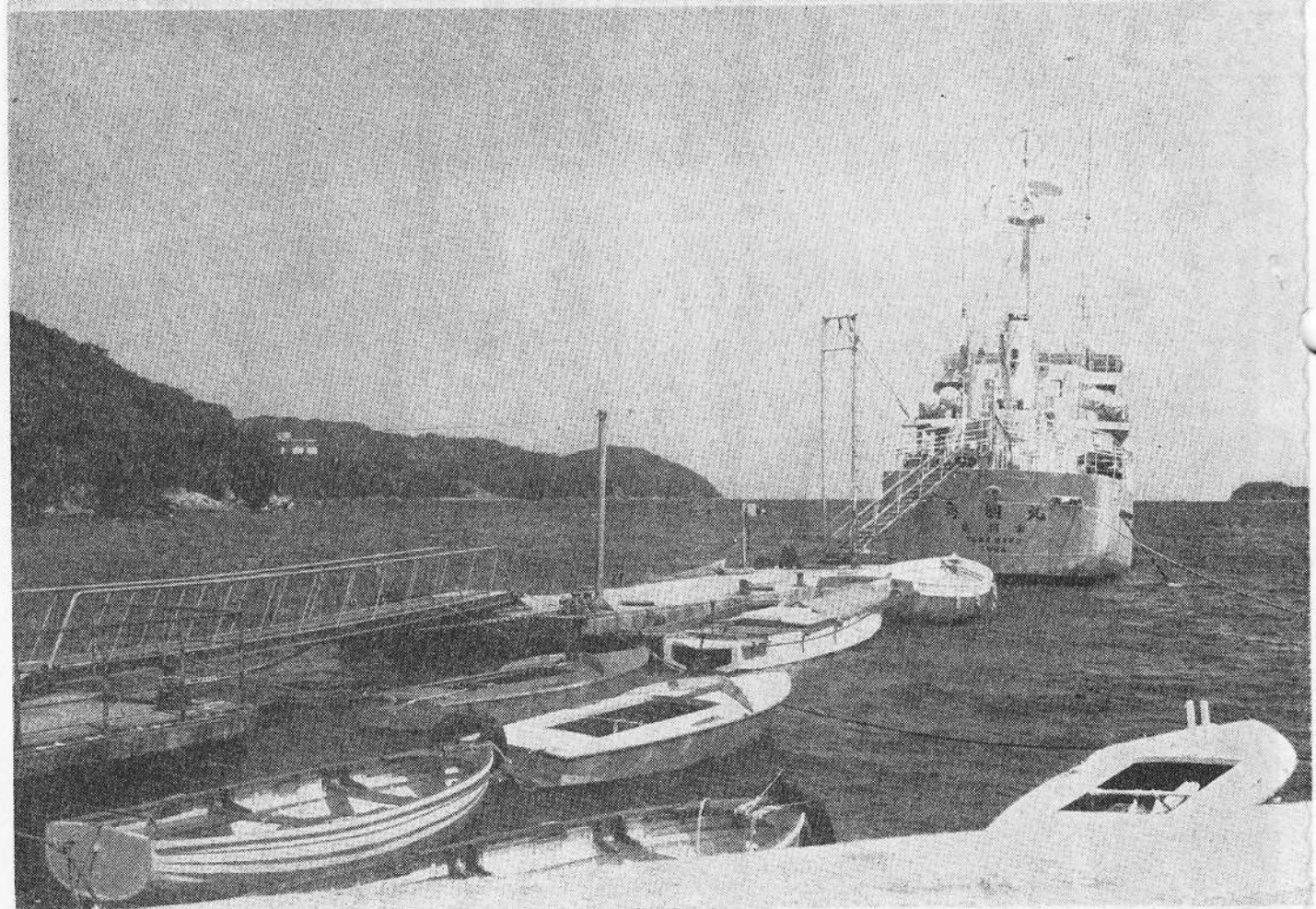
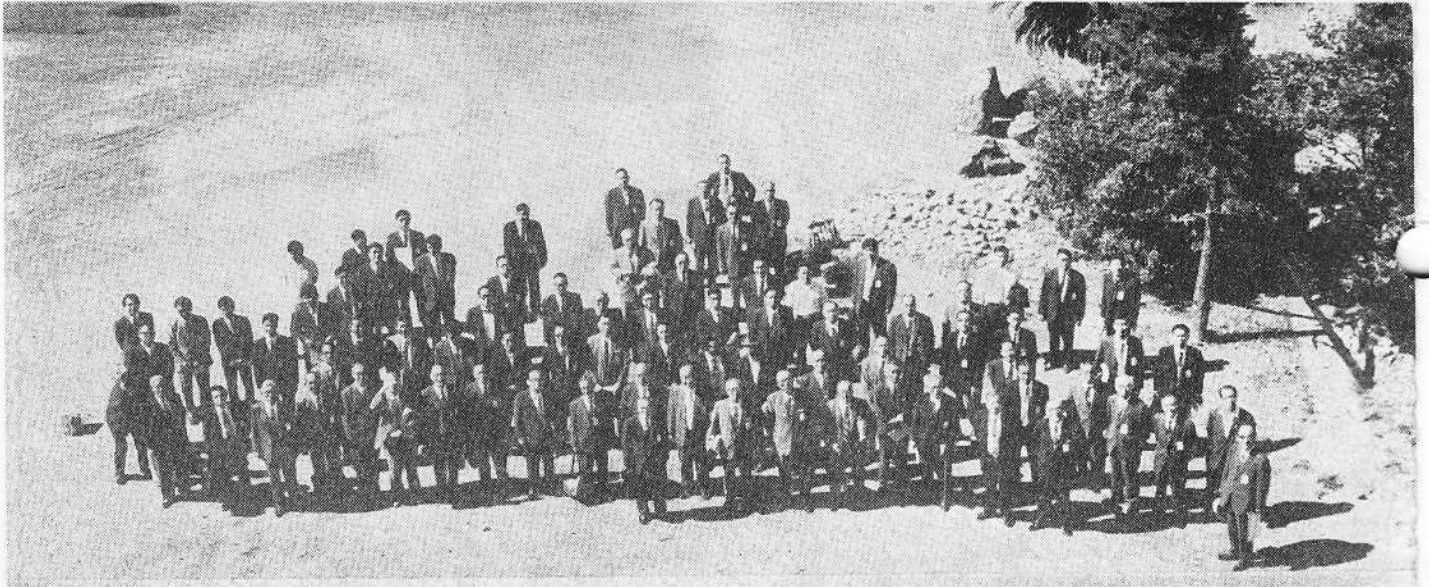




発行所
 三重県鳥羽市池上町1の1
 鳥羽商船高等専門学校内
 鳥羽商船同窓会
 電話 (05992) 5-3137
 郵便番号 517
 製作
 神戸市生田区海岸通3(海岸ビル3階)
 海交社
 電話 (078) 331-2481~3番



〈上〉総会出席者 〈下〉新船鳥羽丸とカッター

言頭卷



会 長 西 島 好 夫

伊勢神宮では

この秋第六〇回
目のご遷宮が執
り行われます。

この祭典は二

最近谷川校長はじめ教職員の格別のご尽力に
よってすべての学校施設は見事に拡充完備し数
年後には創立百周年を迎えますことはまことに
ご同慶至極に存じます。

同窓諸賢におかれても平素母校と会のことに

何かと御配慮御指導を賜り厚く御礼を申し上げ
ます。

× ×

海がわれわれ人類ことにわが国民に与えてい

る思想は、実に広大無辺であることは申すまで
もないことです。

海は昔から海運と漁業にのみ利用されて来た

との考え方を今日根本的に改めねばならなくな
りました。

海が明日の人類の命を預っていると考えその尊
厳さ偉大さ豊さを再認識せねばなりません。

海こそは二十一世紀六十億の人類にとって命
の母であり、この膨大な沃野にはあらゆるエネ
ルギー・食糧・鉱物等の資源が想像もつかぬほ
ど無尽蔵に静かに眠っているのです。

海水の汚染をはじめ漁業権問題その他海で起
きる公害問題で嫌な思いをしている間に全人類
が生きるための資源開発に、速かに取組むべき
時代となりました。

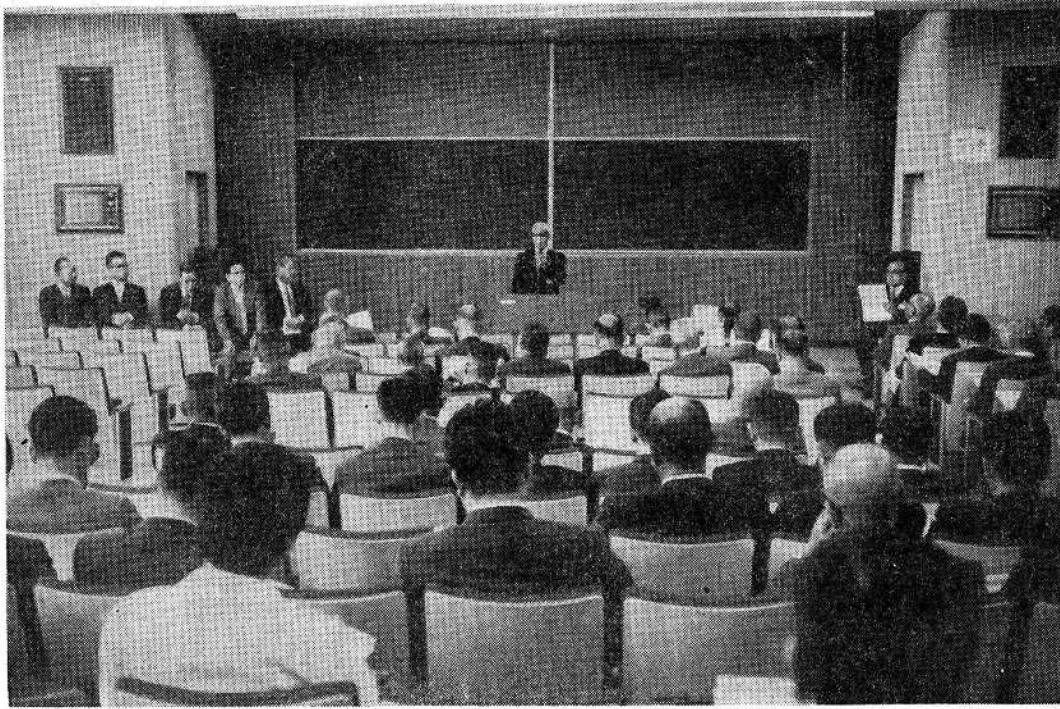
「海洋開発」これこそ七十年代最大の課題であ
り、この問題を特定の専門家の仕事や、その道
の学者だけの研究に頼るべきでないと感じた
します。

この際海事に関係の深い各位におかれても真
の海の姿を理解し、伝統的に持ちつづけられて来た
海運界への情熱と努力を幅広く海洋開発へも
傾けて頂きたく切に念願するものであります。

(四八・九・二三)

〇年毎に総国民まごころこめての奉仕行事であ
り、その規模においても恐らく最大のものとし
てわが日本の歴史を飾っているものと信じま
す。

この聖地の近くを選び近藤真琴翁が母校を創
立せられてここに九十有三年以来二千数百名の
卒業生は国家社会に挺身貢献され、校歴にいよ
いよ輝きを加え昭和四十二年には待望の高等専
門学校に昇格を見るに至りました。



本部だより

昭和四十八年度総会

六月二四日、一二・三〇より新築の母校図書館で本年度総会を開催したので報告いたします。

次 第

- 一、開会の辞
- 二、会長挨拶
- 三、学校長挨拶
- 四、議案審議
- 1、昭和四七年度会務報告
- 2、〃〃〃 会計報告
- 3、会計監査報告
- 4、役員改選
- 5、本年度事業計画
- 6、その他
- 五、各支部現状報告
- 六、閉会の辞
- 七、伊勢神宮の映画観賞

なお当日出席者(九八名)は次の通りでした。

〔N科〕

石垣留由、川原乙松、齊藤常三郎、江崎広治、坂口政治郎、竹内作夫、小池忠平、高橋武工門、加藤重三郎、居島宗一郎、前葉弘文、吉村武男、松本文吾、鎌田藤吉、岡崎武義、加藤元三、坂口才五郎、中村栄三、深津薫、裕口輝治、金子為人、梅山三郎、押尾定夫、末崎弘、西川慶堂、前野嘉治郎、中西勸、井上文雄、山口智男、高安謙二郎、竹内幾生、小原博、山本太郎、小林義夫、城山孝夫、夏目孝雄、奥田邦壮、福村幸平、浅野

和昭、古妻秀夫、沖田彬、落合弘明、下川英之、吉川敬三、竹内茂七、松本暢生、坪田順雄、大沢則義、野尻進、鈴吉達夫

〔E科〕

別府正、伊東博文、中村義夫、沢田秀雄、谷口英雄、井上豊次、富岡己義、赤塚季孝、後藤留吉、中頭武、藤本朗之助、西島好夫、堤好造、高山逸治、大島健次、加藤清、今高光雄、秋山末雄、吉田秀雄、前田正治、北岡万二、山本徳男、青木佐加男、島村一、諏訪致道、山林規矩蔵、垣内進、豊永光司、上村賢治、谷水長生、水谷剛、久保郁夫、伊藤美智男、石原久治、鈴木隆、永田収、井上晴雄、菅恵治、小出政夫、上野紀佳、浜口新次、北川文男、河野和夫

〔学校職員〕

谷川校長、川瀬教務主事、山門航海課長、杉山機関課長、事務部長、

会長挨拶



同窓会員の皆さん本日は遠路多数出席下さいまして有難うございました。母校からは校長先生をはじめ川瀬教務主事、山門航海学科学主任、杉山機関学科学主任、それに新しく就任されました鈴木事務部



(学校職員)

長さんの御出席を賜りまして、同窓会を大いに督励しようではないか、また平素の校務の報告をいたしまして厚く御礼申し上げます。校長先生はじめ諸先生、事務関係の今後の御尽力を心からお願ひ申し上げます。昨年は五月十二日に、高専昇格以来の施設の拡充が一段落したのを機会に行われました祝賀記念日に同窓会を兼ねまして総会を行いました。本年は同窓会の歴史上来た位多数の会員の御出席を賜りまして、年々再々同窓会がますます盛大になって参りまして御同

慶にたえない次第であります。すでに御承知のとおり、私共本部におきましては、一向に間にあいませんが、各支部におかれましてはそれぞれ支部長さんや役員の方々が同窓会のために何かとお骨折願っておりますので、我が鳥羽商船同窓会は一糸乱れず躍進しているわけでありませう。

また会員の方々は各方面に大変な御活躍をなさっておりますことも御承知のとおりであります。母校におかれましては、谷川校長

学校長挨拶



先生が御着任以来、皆さん御覧のとおり着々と施設の拡充が推進されて参りまして、あれよあれよという間にこのような立派な学校が出来て参ったのであります。本日お借りしております立派な視聴覚教室もつい最近出来上ったばかりでございますが、一億円かかったということでございます。このような立派な施設で勉強できる現在の学生諸君を非常に幸福に存する次第であります。

ここでとくに皆さんに御報告申すもので、五校の校長が集りまして、運輸省の船員局長、海運局長、船主協会、NYK、MO、ジャパンラインなどの社長にお目にかかって、求人数の増加をお願いして参りました。また航海学科、機関学科の主任に今回神戸に出張して頂きまして、求人会社を開拓するためいろいろと御苦労を願っております。東京方面にも出掛けて頂きまして、できるだけ卒業と同時にあるいは国家試験合格と同時に就職できるようにとお骨折願っております。船会社におきましては本年の就職条件として、甲一合格を申し出ておりますので、私共は卒業生に対しまして甲一以上に合格するよう啓蒙しております。

つぎに本校の施設につきまして、四七年度予算では、視聴覚教室、図書館、エンジン・トラブル・シミュレータができました。この視聴覚教室、図書館は五月一日に開館いたしました。その記念と

上げたいことは、谷川校長先生は学校の歴史というものを非常に大切にされる方でありまして、同窓会に大変御理解がございまして、常に我がことのように同窓会のことを御心配して下さっております。私に対しまして三日に明けてあれこれと御協力や御指導を頂いているわけでありませう。同窓の落合君が助教として、気象学を担当されていますが、我が国を代表して度々外国における国際会議にも出席されていますが、これも

本校も高専に昇格いたしました六年、昨年九月、第一回の卒業生を出しまして、すでに皆さん方のところで働いている者もあると思われませう。ところが今年度の卒業生に対する船会社の事情から求人

が少なく、航海学科では卒業生三十三名に対して十四名プラスアルファ、機関学科ではおなじく卒業生三十三名に対して十七名プラスアルファとなっております。ほかの商船四校は、小さな船会社からの求人を入れておりますので、本校よりは幾らかよいように思われます。

先日船会社からの求人数が少い先生が御着任以来、皆さん御覧の学校の歴史というものを非常に大切にされる方でありまして、同窓会に大変御理解がございまして、常に我がことのように同窓会のことを御心配して下さっております。私に対しまして三日に明けてあれこれと御協力や御指導を頂いているわけでありませう。同窓の落合君が助教として、気象学を担当されていますが、我が国を代表して度々外国における国際会議にも出席されていますが、これも

要求ではガス・タービンを出すことにしております。文部省では計算機を全国の高専に設置する方針でありますので、これもこころ、二年中に予算化されるものと思われませう。これが実現しますと、情報処理教育が一段と充実すると期待されております。私がかねてから教官、学生が共用できる基礎的実験センターの設置を考えております。

御承知のように船舶技術は日夜前進しておりますので、学校で習得した教育が実社会では間に合わないといったのでは困りますので学生には基礎的な学問をたたくまでおけば如何に技術が進歩してもこれを理解し、またこれを駆使することができると希望するので、私の在職中に実現したいと努力している次第であります。学生の動向も全寮制のせいもあって悪い伝統も残っておりますので、教育のむつかしさを痛感しております。先

本校も高専に昇格いたしました六年、昨年九月、第一回の卒業生を出しまして、すでに皆さん方のところで働いている者もあると思われませう。ところが今年度の卒業生に対する船会社の事情から求人

が少なく、航海学科では卒業生三十三名に対して十四名プラスアルファ、機関学科ではおなじく卒業生三十三名に対して十七名プラスアルファとなっております。ほかの商船四校は、小さな船会社からの求人を入れておりますので、本校よりは幾らかよいように思われます。

先日船会社からの求人数が少い先生が御着任以来、皆さん御覧の学校の歴史というものを非常に大切にされる方でありまして、同窓会に大変御理解がございまして、常に我がことのように同窓会のことを御心配して下さっております。私に対しまして三日に明けてあれこれと御協力や御指導を頂いているわけでありませう。同窓の落合君が助教として、気象学を担当されていますが、我が国を代表して度々外国における国際会議にも出席されていますが、これも

要求ではガス・タービンを出すことにしております。文部省では計算機を全国の高専に設置する方針でありますので、これもこころ、二年中に予算化されるものと思われませう。これが実現しますと、情報処理教育が一段と充実すると期待されております。私がかねてから教官、学生が共用できる基礎的実験センターの設置を考えております。

御承知のように船舶技術は日夜前進しておりますので、学校で習得した教育が実社会では間に合わないといったのでは困りますので学生には基礎的な学問をたたくまでおけば如何に技術が進歩してもこれを理解し、またこれを駆使することができると希望するので、私の在職中に実現したいと努力している次第であります。学生の動向も全寮制のせいもあって悪い伝統も残っておりますので、教育のむつかしさを痛感しております。先

昭和47年度一般会計決算 (昭和47.4.1.より 昭和48.3.31まで)

Table with 4 columns: 摘要, 収入, 支出, 残高. Rows include 繰入金, 会費, 名簿代, 福永学, 芳雄, 雄忠, 武雄, 田久保, 士朗, 平蔵, 金久要, 三蔵, 加藤元, 佐野房雄, 預金利息, ネクタイピン代, 同窓会報印刷及び送費, 一般印刷費, 通信費, 竣工式祝賀, 卒業式パーティ, 文化祭, 運動選手, 支部総会補助, 郵便振替料, 役員旅費, 謝礼, 慶弔費, 和陣中見舞, 落合海外出張, 小山氏香奠, 事務用品, 事務手当, 事務雑費.

基金の部決算 (昭和48.3.31)

Table with 4 columns: 摘要, 収入, 支出, 残高. Rows include 繰入金, 預金利息, 合計.

財産目録 (昭和48.3.31)

Table with 4 columns: 項目, 金高, 左の内訳, 金高. Rows include 一般会計, 基金, 郵便振替, 貸付信託(安田), 金銭信託, 定額預金(相互), 普通預金, 現品(ネクタイピン), 現金, 総計.

事業報告

谷口副会長



式後簡易保険センターにおいて祝賀パーティを開催しまして大変盛況でした。

十一月九日に松頼荘で開催されました京浜支部の総会に谷川校長先生と落合教官に出席して頂きました。

昭和四十七年度の事業報告について説明申し上げます。

七月末から八月中旬にかけて落合教官が外国出張されましたので餞別を贈って激励いたしました。

九月十三日に同窓会報二千三百部を発行しました。

九月三十日に高専第一回の卒業式が挙行されましたので、会長はじめ本部の理事が出席しました。

二月十九日に全船協会長の小山さんが亡くなりましたので香典を贈りました。

五月二十三日伊勢志摩支部の総会を開催しました。

会計報告

(谷口副会長)

会計報告を申し上げます。別表に示しましたような結果となりました。主な点について申し上げますと入会が四十九名ありましたので二万四千五百円となりました。会費納入者は六百一名で、百五十九万入金されました。

これは一度に何年分かを納入されましたので、人数に対する会費

よりも多額の納入となったわけです。

以前同窓会で製作したネクタイピンは当初千七百円でしたが、早く換金したいと思えますので千五百円に値下げしました。

支出の主なものには会報の発行費で二十四万余りとなりました。次に母校の竣工式費用として九十万円寄付いたしました。また高専第一回卒業生に対しての祝賀パーティに十万円寄付いたしました。在学生の体育大会など対外試合に對しての援助が増えています。

高専となりまして、試合が全国規模となってきたことにより、各支部に対する補助として一万円ずつ支出しました。

役員改選

役員は二年交代になっております。今年度は改選時機がきております。各支部からの推選で候補者があげられておまして、本日の理事会で承認されております。一部を除いて全員留任ということになりました。

交代があったのは東京支部の久保文計さん(神戸に転勤)が小山逸男さんに、また伊勢志摩支部の駒田秀夫さん(名古屋に転勤)が上野和泉さんになりました。本年二月名古屋支部の総会において関口展生さんが支部長になられたので、会則により自動的に理事になって頂くことになりました。

本年度事業計画

一、本年度卒業式までに会報を発行いたします。

二、新名簿を発行するための準備を着々進めていますので来春までに印刷したいと思っています。

◇西島会長

四十八年度の事業計画について補足説明させて頂きます。母校への寄付、名簿の発行など従来おなじようなことが繰返されてきましたが、ここで予算として多少修正させて頂きたいと思えます。それは先程谷川校長先生から、このような立派な視聴覚教室ができたので、各界で活躍中の同窓の皆さんに是非講演に来て頂ければと御申出下さいましたこととあります。

同窓と在学生との交流を一層密にするという見地から、校長先生の御了解を得まして落合君にその事務一切をやってもらうよう本人と話し合っておりますので、そういう意味での手当の増額をお願いしたいのであります。

本年度は事務手当を二十六万四千円から四十八万円に増額して頂くよう提案いたします。また事務費として従来の三千円を十二万円に計上させて頂きましたが、在学生との交換などについて茶菓子などを購入したり、あるいは同窓会の仕事を手伝ってもらった場合の謝礼などに当てることになりましたのでよろしく御了承下さい。

質疑応答

質問（後藤留吉会員）

「会長の事業計画についての御説明のなかで、在学生と同窓生の親密化をはかるとありましたが、具体的にはどのような方法がとられるのか御説明願いたい。卒業パーティーについても説明して下さい」

回答（西島会長）

母校が高専に昇格しましたので、創立時代の鳥羽商船、国立の鳥羽商船高等学校とは多少そこに断絶が感じられたのであります。私共同窓生としましては何とかして母校を護って行きたいと考えるのは当然ですが、本校のみならず一般の傾向としては古い者には目をく

新会長挨拶

本日の総会で新しく改選されました役員一同にかわりまして御挨拶申し上げます。

非常に和やかな総会でございましたので物々しいことはございませんが、本来ならばこの総会で理事を選んだ後しばらく休憩したのち役員改選という手順をとらなければなりません。万事簡単に終らせて頂いたことをお詫び申し上げます。私事でございますがこの辺で止めさせて頂きたいと思いましたが、谷川校長先生から何かと同窓会のごことで御相談を受けております

れないで新しい者だけで何事も押進めるといふ考え方が強まっています。おれたちだけでいいじゃないかという考え方が強いのであります。

数年前から大阪の吉村支部長さんが「なんとかして高専の卒業生も同窓会に入会して共に母校に寄与しようではないか」という方針で進まなければならぬ」と提唱されてきました。谷川校長先生も同窓会に深い御理解があるところから、私共は機会ある毎に母校に参りまして、在学生に接するといふ方針を固めたのであります。在学生と話し合う場を持つためでありまして、そこで落合君が同窓として母校に残っているわけでありまして、在学生と同窓会のパイプ的役割を果してらっしゃる次第で

ので、この際御推挙を受けまして微力ではございますが努力いたしたいと考えております。役員の方々は多忙のなかを同窓会のためにお骨折願っているわけでありまして、とくに支部におかれましては経費なども不十分を承知のうえお引受願っているわけで大変心苦しく存じる次第であります。自分達のことという母校愛から御努力願っておりますが、母校の創立百年も間近になっておりますので、一層の御協力をお願いしなければなりません。どうかよろしくお願ひいたします。新会長といたしまして、会員の皆様の御協力をお願いいたします。

す。

今後在学生と同窓との交換の機会をアレンジしてもらおうよう話合っております。卒業と同時に同窓会に入会してもらったらどうだろうという関係者の発案で卒業祝賀パーティーを同窓会が共催することになったのです。従来何となく同窓会に入っていたのを、同窓会が卒業をお祝いすると同時に同窓会への入会を歓迎するパーティーを行って一つの区切りをつけたいと考えたのであります。

また講演会などにつきましては母校とはあまり関係のない人よりも、母校に対して常に関心を深めている同窓生にやってもらおうじやないかという私や校長先生の意見が採り入れられたのであります。図書館開館記念講演会もそういう意味から、学内からは落合君同窓会からは私が先陣を承ったのであります。

支部報告

◇京浜支部

(江崎広治支部長)



京浜支部は現在会員約二百名となっております。行事としましては昨年十二月九日、玉川園前の松頼

であります。

今後、船長、機関長その他各方面で活躍されている同窓の皆さん是非お話願いたいのであります。在学生におれたちも将来学校に戻って話をしようという気風を植えつけたのであります。

後藤さんも機会を見て御協力をお願いしたいと思っております。母校と同窓会のつながりを一層緊密にしたいという学校側の考え方をより推進したのであります。

質問（後藤留吉会員）

「同窓会に在学生を参加させたかどうか」

回答（西島会長）

学生の代表を、希望を募って参加させるという方法もあります。在学生諸君にも同窓会の和やかな姿を見てもらおうのもよい方法だと思われまして、今後そのような方向にもって行きたいと思えます。

荘におきまして、支部の総会を行いました。会員六十名と母校から谷川校長、落合教官それに旧教官五名が参加されまして盛大に開催されました。

私の感想としましては、最近はお若い同窓が参加されまして、同窓会に対して関心を深められていることを非常に喜ばしい傾向と認めております。欲を申し上げますればこのような形式ばった総会ばかりでなく、会員相互が気楽に話し合えるような会合があってもよいと考えています。

次に昨年暮の総選挙で和田春生

君が立候補され、十三万四千票を
獲得しながら利あらずして涙を飲
む結果となりましたことは皆さん
すでに御承知のとおりでありま
す。当支部では選挙戦中、事務所
に以表五名が陣中見舞に参りまし
た。和田君は将来に備えて勉強中
とのことでありまして、同窓の皆
さんにとくによろしくとの御挨拶
がありました。

最後に全船協会長の小山さんが
二月九日に亡くなられました。小
山さんはその生涯を海運界の発展
に尽され、政界、財界と広い分野
に亘っての御活躍を基盤として、
その行動力は他の追従を許さぬも
のがありました。まことに惜しい
人を亡くしたものと思っております。
二月二十三日の全船協会葬に
は同窓会を代表として参列いたし
ました。

◆名古屋

(加藤重三郎前支部長)

最近私の先輩である間宮千代七
さんが急病で亡くなられました。残
念でした。私は名鳥会の会長を十
年間やらせて頂きましたので、先
輩である間宮さんにやって頂けな
いかと話をしていたことが実現で
きませんでした。そこで関口展生
君にお願いすることになりました。
関口さんは名鉄海上観光の取
締役をやっておられました。定
年で御退職されました方でありま
す。現在小型船舶操縦士の養成を
やっておられますので大変多忙と
承っていますが無理を承知で押し
つけたような次第です。私は二十

年住みました名古屋を引揚げまし
て四日市の湯の山温泉の入口に当
る大羽根園に移りました。空気の
きれいなところでございますので
是非お立寄り下さい。

最近名古屋を起点とする太平洋
沿海フェリーに若い同窓生が活躍
しておられます。大変喜んでおり
ます。昨年第一船が完成した折招
かれました三日間乗船いたしました
が、その近代設備に驚いた次第
であります。

私事で失礼ですが、今回NHK
テレビのスポットライトという永
六輔の司会による番組に出ること
になりました。題名は「二つの鐘」
で、昭和二十七年私がニューヨー
ク航路の船長時代に、日本から国
連本部に贈られた平和の鐘を運ん
だことがとりあげられたのです。
当時四国の宇和島の中川市長さん
が、世界各国(六十五ヶ国)から
集められたコイン(ローマ法王か
ら贈られたものも含む)で鑄造し
たもので、世界の絶体平和を祈願
したものであります。ニューヨー
クで贈呈式を行おうと考えまして
デッキの上にステージを作りまし
て、沢田国連大使を始め多数の参
列者を得て贈呈したのであります
が、そういう記録が今回放送され
ることになったのです。この鐘は
万国博の際里がえりをしましたの
で御存知の方もあると思われま
す。二つの鐘のもう一方の鐘は日
比谷公園にある自由の鐘について
であります。七月一日朝七時半か
ら放送されますので御覧下されば
と思っております。

◆四日市

(末崎理事)

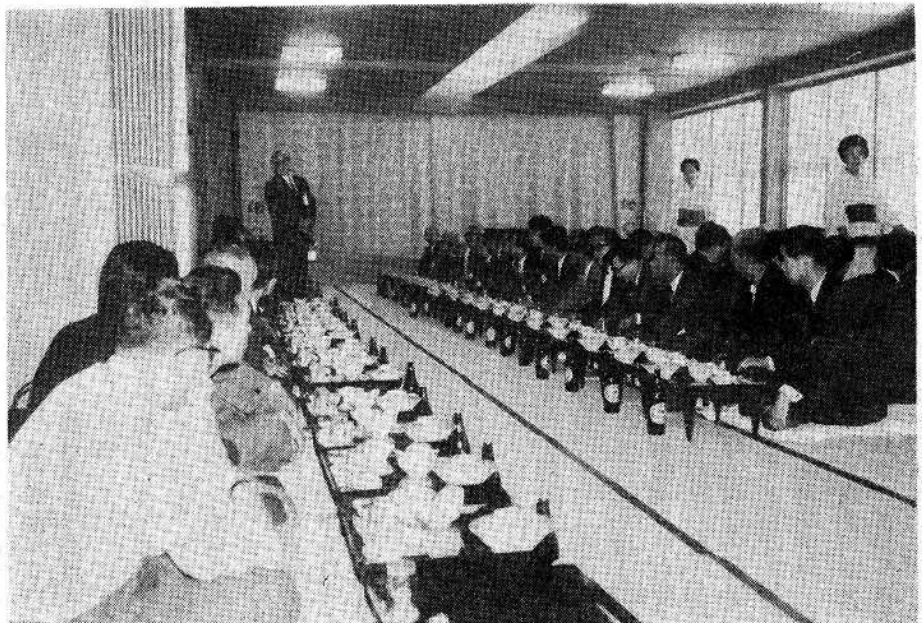
会長が洋行中ですので私が代っ
て報告いたします。鳥酒会は約百
五十名の会員で構成されておられ
ます。年一回の総会をやっておりま
して、昨年は十二月二日に、谷川
校長先生、西島会長、谷口副会長
の臨席を得まして、四日市の五十
鈴で開催しました。最近若しい傾
窓の参加が増えまして喜ばしい傾
向であります。年一回の会合では
つながりが薄いという御意見が多
くなりまして、四月二十一日に佐
波さんが経営されています北勢パ
ラダイスでボーリング大会を開催
いたしましたところ、大雨にも拘らず
二十四名参加して頂きました。名
鳥会からも島岡さん、伊藤茂雄さ
んが参加されました。次は十月頃
長島温泉で名鳥会と合同で懇親会
をやるうと準備を進めております

◆大阪

(吉村支部長)



大阪支部は昭和二十三年に発足
いたしました。各支部中一番古く
から活動を続けていると思ってお
ります。名前は錦浦会でありま
す。大阪は商売の町でございます
で、同窓生もその方面で活躍され
た方が多いように思われます。



(総会後の懇親会)

現在支部は昨年以來総会をいた
しておりませんので、今後支部の
活動を盛んにしようと考えており
ます。昨年末に神戸支部と合同で
懇親会を開催しようという計画を
神戸の岡崎さんから御連絡受けた
のであります。落合教官がメキ
シコに御出張中ということで延期
になり、遂に機会を失してしま
いました。会員は百名以上おられま
すので今後の活動を若い同窓を中
心として推めたいと考えておりま
す。本日出席されております小原
博さんのような方にお願したい
と思っております。小原さんは現
在近畿海運局の港運課長として活
躍されております。大変心強く思
っております。

◇神 戸

(押尾支部長)



神戸支部の総会を持つと何度も計画いたしましたが、ご承知のように昨年四月十四日から九十日に及ぶ大海員ストがありまして、神戸のほうは船会社に勤務する人が多い関係もありますので、機会を失った次第であります。本年度は八月始めに支部の総会を開くべく準備中でありまして、そろって参加下さいませようお願いいたします。

◇伊勢・志摩

(西川支部長)



昭和四十六年に支部を結成しましてから支部長をさせて頂いております。昨年は私が多忙のため機会を得ませんでした。西島会長が伊勢市長に立候補されました際に伊勢市の八百正で激励会を開催いたしました。本年は五月三十日に鳥羽の文化会館で支部の総会を開催しました。現在百五十名の同窓が見えますが、昭和四十四年以降の卒業の方は殆んど乗船中でありまして、出席不可能が多々ございます。二十名が参加されました。今後の母校の膝元でも

地方便利

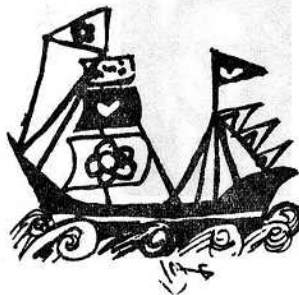


【京浜支部総会】

昭和四十七年九月十四日東京、八重洲口の海洋会で和田春生後援会の臨時総会があり、この機会を

利用して江崎、中村、望月、筒井久保、諏訪、浅野・辻の諸氏が集まって十一月九日(木)、昨年と同場所の松頼荘で開くことを決めた。案内状は二〇〇枚書いて十月二十三日に投函した。いよいよ当日が来た。六時四十分まで待ち出席者が六五名となったので開会することにした。会は浅野理事の司会により進められ、江崎支部長の挨拶から始まった。

ございますので、校長先生を始め学校関係者を交えて懇親の場を持ちたいと考えております。



つづいて谷川校長の最近の学校の模様についての話があり、ついで中村副会長の京浜支部の報告、谷口副会長にかり鳥羽からかけつけた落合理事の同窓会本部の諸報告とつづき、浅野理事より和田後援会の件と、止むを得ず欠席となつた人の伝言(別項に掲載)が披露された。続いて懇親会に移り、年長者の佐藤信次氏(大正四年N卒)の音頭により乾杯が行なわれ各自の近況や昔話に花が咲いた。宴たけなわの八時頃、和田衆議院議員が拍手に迎えられる来場。四日後には国会は解散首は飛ぶが再選を期し立候補するので同窓の皆さんにご協力をお願いしたいとの挨拶があった。

この頃、海上の友誌や船員新聞等から記者が見え、会の模様取材、写真撮影などをして帰って行った。

また、諏訪氏より十一月十二日(日)の朝九時からのNHKの国会討論会に和田衆議院議員が出席するので皆さん家におるようでしたら、ぜひ聞いてほしいとの話があった。

最後に、全員で校歌を合唱し、和田代議士の再選のため同窓生大いにがんばろうと誓い合い来年の再会を約束し午後九時三十分散会した。

なお、今回の会合の感想をのべて見ると、昨年の八四名には及ばなかったが、まあまあ盛会の部類であった。

小山全船協相談役は四十年以降皆出席であったが今回は病気のため欠席された。

しかし、和田代議士が出席され国会解散前で丁度再選激励会も兼ねたわけであるがタイミングとしてはよかった。

また、京浜地区の総会が次第にPRされてきたためか遠方からの出席者が多かった。

沼津から久保田隆夫氏、大阪から中西勤氏、群馬県の伊勢崎市から小林義夫氏、清水市から福村幸平氏、伊豆から松本昭一郎氏等が参加した。また、昭和十八年卒の出席者が八名もあったことも特色の一つであった。

昭和十八年卒の人は、仲々優秀な人材が多く同級生としての結束

も固いようである。小林義夫氏もその中の一人であり、商船学校時代専門学より文学の方に興味を持った人で病気で実習を含め二年も遅れてしまったが、仲々義理堅い人である。二年生のとき病気で生死の境をさまよい、同級生から輸血をうけ命が助かった。戦後、輸血をうけた人にお礼をのべるため全国を歴訪している。

また、小林氏の同級生で大阪に住んでいる山本徳男氏は昨年小林氏が病気で半年休んでいるとき大阪から群馬県まで見舞に行っている。とに角このクラスは仲々の人物がそろっている。その他昭和十一年卒、昭和二十九年卒の人も結束が堅いようである。

最近、同窓会京浜支部の模様が会報で全国に知られるようになったためか、支部の総会ではあるが、出席者が非常に多い、内容がある、小山元代議士、和田代議士等の船員出の大物も出席する。母校からも二三人出席者がある。京浜在住の旧教官が出席する等々好条件がそろってか年々盛会になって行くように思う。

現在、京浜地区には各地方の商船学校の同窓会、海洋会関係の会合があるが、鳥羽の同窓会の京浜の総会は、出席者が多いので今や関係方面から羨望の的になってきている。

毎年十月か十一月に開催するので出席希望者は在京理事に九月頃には連絡してほしい。

なお、左記の方よりご寄付として合計六万二千五百円をいただきました。ご協力厚く御礼申し上げます。

久保四郎平、和田春生、村崎良介、久保田隆夫、勝川利一郎、同窓会本部

出席者氏名(順不同・敬称略)
小林忠次、江崎広治、佐藤信次

小山定雄、上村文三郎、藤原正治、田中章治、坂口才五郎、中村栄三、平光五一、小島明正、上村一雄、浜崎健三、久保田隆夫、望月武夫

筒井堅一、和田春生、松岡秀次、堂坂美種、佐藤静雄、加藤徳助、城山孝夫、中西勸、石川正次郎、久保文計、福村幸平、青木佐加男

小林義夫、勝野銚三、浅野和昭、藤崎金太郎、田辺礼司、石田輝昭、林幸雄、門倉毅、荒巻武郎、川村喜一郎、林幹夫、大箸孝之、高橋恭三、宗田寛、中島恭次、野田芳樹、三沢茂明、福島忠人、青木金次郎、水戸岡公一、山田博、真鍋重治、辻裕、菅原昌男、佐藤隆、川田克也、榎田完次郎、松本昭一郎、山本保夫、田中靖吉、鈴木東英、諏訪致道、吉原保行

招待者
谷川英一、村崎良介、勝川利一郎、千葉宗雄、落合弘明、以上六五名

欠席者からの伝言……

秋の叙勲の受授式の方と重なり残念ながら出席できません。皆さんによりしくお伝え下さい。

旧教官 茂在 寅男

嬉しいおさそい有難うとございます。私は残念ながら運輸省の用事で十一月四日から二十四日までオーストラリア・ニュージールランドへ飛びますので出席できません。皆様によりしくお伝え下さい。

MOのベルゲン丸で、オメガの観測を太平洋大西洋上で続け、来年二月に帰国します。

T5N卒 家里 琢夫

皆さんにお会い出来る事を楽しみにしていましたが、予定が重なって欠席となり残念です。

同窓会ではいつも帆船時代を思い出してソーラン節を歌うのですが今回は駄目になりました。自己紹介の折にこのハガキを読みあげて頂ければ幸いです。皆様のご健康をお祈り致します。

T14E卒 田代 精一

当日は出張中のため残念ながら欠席となります。皆さんによりしく。

S5N卒 大林 億満

毎度ご連絡くだされ厚く御礼申し上げます。小生体の調子悪くこの度欠席しますが、皆様によりしく。

S13N卒 小野菊次郎

目下愚妻入院中由来月十日頃手術が予定されておりますので残念ながら出席できません。

万障繰り合せて馳せ参じたい気持で一杯ですが以上勘案の上ごよ

うしゃ下さい。

和田先輩のご健斗と同窓生皆様のご多幸と会の発展を祈念いたします。

S18N卒 山口 智男
S19・12N卒 杉島昇

十一月六日より十日迄北海道に出張のため出席出来ませんので悪しからず。

(昭和47・11・16浅野記)



和田春生議員に

政治を聞く会開催

東京地区和田春生後援会主催による和田衆議院議員に話を聞く会が九月十四日午後四時から東京・八重洲口の海洋会の本部ホールで約八〇名の出席を集めて開催され盛会のうちに午後五時三〇分閉会した。

席上、和田議員は田中首相の日本列島改造論にふれ「改造論は、

陸の問題は取りあげているが、海とくに海運、港湾の問題にはほとんどふれていない。昭和六十年には内航輸送量は現在の約五倍、石油輸入量も四倍になるものとみられるが、こうしたことへの案は打ち出されておらず、結局改造論も具体的段階にはいれれば矛盾を露呈することになる」と問題点を指摘した。

また、総選挙については、日中友好の余勢をかつて十一月頃には国会解散を行なうものとみていることを明らかにした。

なお、高橋千千後援会副会長から総選挙が近いので出席者全員に協力の要請があった。

当日の鳥羽関係出席者氏名(順不同) 望月武夫、中村栄三、筒井堅一、諏訪致道、酒井保夫、小島明正、久保文計、久貝浩、浅野和昭、江崎広治、松岡秀次

衆院選和田候補応援記

前回、当選したときの応援記はすらすらと書けたが、今回は議席を失ったので筆が思うように走らない、不思議なものである。

しかし、失敗の時の記録も残しておくべきだと考え、書くことにした。

昭和四十七年九月一日
一日発行の昭和四十七年度同窓会報を通じ三多摩地区に居住している親せき、友人、知人を紹介するように会員に呼びかけた。(実際何人ぐらいの人が具体的に紹介運動に協力してくれたであろうか)

十一月九日夜

多摩川べりの松頼荘に京浜地区在住同窓生旧教官六六名が集まり同窓会の支部の総会を兼ね、和田さんを励ます会を開催す。

なお、この会の模様が掲載された船員新聞十一月二十日号を三多摩地区に居住する同窓生約四〇名に送付した。(でも、どの程度票集めに役立ったのだろうか)

十一月二十四日夜

同窓会本部から送られてきた陣中見舞と京浜地区同窓有志の「貧者の一灯」を中村、浜崎、望月、筒井、浅野の五氏が代表として持参し、三鷹の駅前の酒屋で買った特級酒三本を加え三鷹の選挙事務所を訪れ事務局員を激励す。

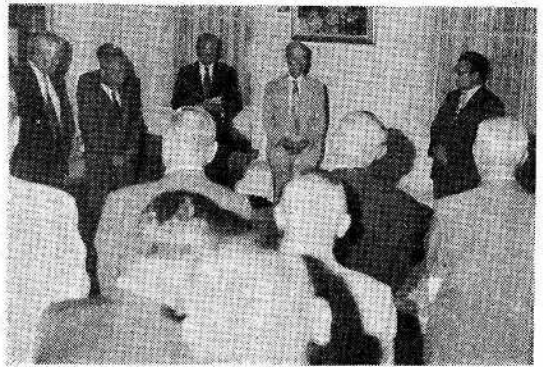
十二月十一日(開票日)

後日、同窓生の話を経合すると大部分の人は、テレビの開票速報には注目していたようである。東京七区は全国でも最終の方で当選者が確定する選挙区である。和田さんは最後まで第七位から浮上せず一三万五千票もとりながら力及ばず次点で涙をのんだ。

全国的な民社の退潮にまき込まれてどうすることもできなかった十二月二十六日夜

筒井先輩の骨折により和田さんの残念会兼再起激励会が新宿の今佐で開かれた。

集まった人は、和田さんのほか千葉宗雄さん(前航海訓練所々長) 福田さん(旧教官) 中村、浜崎、望月、筒井、島岡、久保(士) 浅野、三沢の十一名であった。当選祝賀会なら来ると言っても相当



同窓生だから全船協の会員だからと言っても支持する政党は自民から共産までいるわけであるから民社だけを支持してくれとお願ひしても無理である。しかし、「船員の代表を国会へ」ということでは超党派的にまとまる事が可能と思う。

既に和田さんは次回に向け行動を起こしている。皆さんのご協力をお願いして稿を閉じる。(47・12・30A記)

お知らせ

昭和二十三年十月に同窓会京浜支部が結成されてから今年度は丁度二十年目にあたります。

支部の総会ですが、最近は参加者も増加し年々盛会になっています。毎年遠方からの参加者も四、五名あります。

本年も十月か十一月頃多摩川べりの松頼荘で開催する予定です。開催間ぎわになりますと往復ハガキで通知することになっていますが、通知もれ等もあると思われま

すので在京者はおち論のこと遠方在住者で、今回出席を希望される方は在京理事あるいは知人等にあらかじめご連絡になって下さい。

昭和四十八年八月
京浜支部長 江崎広治
同窓生各位

四日市

私共の鳥酒会は、毎年総会を開催し相互に情報を交換し親密の度を加えておりますが、本年は、二月二日、四日市駅近くの「伊勢路」に於て谷川校長、西島同窓会長、谷口副会長を迎え盛大に開催しました。

当会は年々出席者が増えておりますが特に今回は若い人が増えたのが目立ちました。会の発展のため喜ばしい事と思えます。

校長、同窓会長から、学校、同窓会の近況について説明があり、続いて会の発展に伴い規約の一部改正し、理事の増員を含む役員改選を行ないました。

今回は、特に若い人が多いため自己紹介をしてから懇親会に移り同窓の消息、母校の思い出を語り合ったり、なつかしい校歌を合唱したり、和やかな一刻を過ぎました。

出席者並びに新役員は下のとおりです。

昭和47・12

中沢記



航海科

- T 9 大川、S 8 嶽尾、S 19 富岡
- S 29 水越、S 37 石垣、T 12 前葉
- S 13 西川、S 21 中野、S 33 片山
- S 37 中沢、S 7 杉浦、S 17 末崎
- S 22 沖田、S 35 川村、S 38 名倉
- 機関科
- T 11 岡田、S 5 井村、S 14 佐波
- S 19 上村、S 37 山田、T 12 細川
- S 6 柳川、S 16 今高、S 34 柴山
- S 39 伊達、T 13 若林、S 6 松永
- S 18 北岡、S 35 伊藤、T 13 赤塚
- S 8 大鳥居、S 19 橋川、S 35 瀬古
- T 13 草深、S 13 安田、S 19 高野
- S 37 佐野
- 役員
- 会長 細川 英一

副会長 前葉弘文、佐集義三
理事 西川敏夫、末崎弘、中沢昌信、中野清文

昨年の総会に於て、年一回の総会に加えて、ゴルフ、ボウリング魚釣り等のリクレーションを行なおうとの提案がありました。四月二十一日に、当会の佐波副会長の経営する新緑荘に、藤原岳のふもとの北勢パラダイスでボウリング大会と懇親会を開催いたしました。ボウリングは2ゲームの総合得点を競った結果、S 14 N 熊野伝誠先輩が優勝しました。

懇親会に移ってからは、改めて自己紹介、挨拶をし草木の緑一杯山郷のムードを満喫しながら、大いに杯を傾けました。

尚当日は、二十四名の参加者の内、名鳥会から嶋岡副会長が出席され、近い内に鳥酒会、名鳥会合同の懇親会を開こうとの提案があり、長島温泉迎いで開催出来るよう準備を進めております。

昭和48・4 中沢記

伊勢・志摩

伊勢志摩支部の総会は、五月三十日に鳥羽市の文化会館内の和室で開催されました。設立当初から会員の親睦を深めるのが主目的となつていますが、いざとなるとなかなか機会がなく、今年も本部の総会前にやらなければというので急に開催したような次第です。こ

れという議題もありませんので、昨年以來の会計報告終了後は、自己紹介をいくつかの機会を進めまして。

前田耕作さんが、明治初年に画かれた鳥羽市の地図に、商船学校が記入されており、その場所は、現在の伊藤書店の近くと推定されるとの発言がありました。そして鳥羽商船学校発祥の地という記念碑を建てたいかどうかという提案がありましたが、その後の調査で位置をもう少し確かめたいという申し出がありません。

当日参加されました方は次のとおりです。齋藤常三郎、竹内作夫、坂口政二郎、前田耕作、谷口英雄、藤本朗之助、木戸口一、秋山末雄、西川慶堂、上野和泉、三宅文郎、落合弘明、竹内茂七、上野紀佳、須永博、浜口新次、豊永光司、石原久治

当日母校の古い写真や資料などがあつたら母校に百年祭資料として寄付しようという提案と、機関

◆鳥羽船員保険寮

鳥羽市安楽島うつぽ谷

一二〇〇〇一三二

電話〇五五九二一五二一三九八七

道順

近鉄鳥羽駅から、タクシーで十分

はじまりと特徴

鳥羽には、明治十四年創立の国

科卒業生に対して小型船舶操縦士の資格を与えてもらうよう運動すべきだという意見がありました。

神戸

阪神合同支部総会開催

神戸会・大阪錦浦会

◇とき・昭和48年8月4日(土)

4時半から

◇ところ・神戸市山手の

観光旅館「宝月」

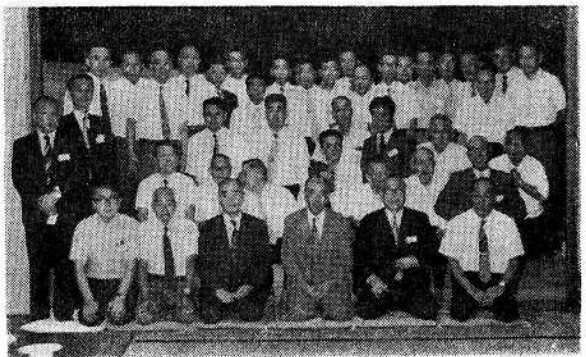
日本中が干上った?今年の夏場なかでもとくに暑かった八月上旬、土曜日の午後だった……。

しぶりに(二年越しの懸案……)神戸と大阪両地区の支部総会を合同で開くことになった。

支那料理、バイキングと続いた前々回、前回とはちよつと趣向をかえて、今回は旅館大広間での日本料理となった。それも会席ではなく、五、六人づつテーブルをか

こむという恰好で……。どうも最初から喰いもの話になりましたが、勿論、総会は総会、お定立鳥羽商船高専学校がある。商船学校所在地に船員保険の保養所が開設されたのは、鳥羽が最初である。業務は、昭和四十六年四月から行なっている。三重県内には尾

鷺保険寮があるが、観光地にもこういうことで、名古屋、四日市港にも近い鳥羽が選ばれたものである。鳥羽は国民の古里ともいわれる伊勢志摩国立公園の中にある。太



たと思います。

集まる者、明治は遠く、43年卒業(N)という石垣大先輩以下、大正、昭和三代にわたる39名(別記)……これはいささか阪神合同にしては淋しい人数でした。

よんどころなない社用、商用、それにはやはり暑さのせいもあったのでしようか、世話役としては、少なくとも七、八十名は予想していただけに残念でした。

しかし、阪神地区の在住者のなかに、ほかの地区に較べて、ただいま「乗船中」の同窓の数が、相当に多いように思われました。でも、そういう留守家族、とくに母君や奥さん方から、実に丁重な欠席通知をいただいたことは、心から嬉しく思いました。

◆……御案内状ありがとうございました。実は本人は二週間前より外国を航行中ですので欠席いたしますが悪しからず御諒承下さいませ。代筆母節子……

◆……今年五月より一年航路に乗船中で、残念ながら欠席させていただきます。会の御発展をお祈りいたします。……これは奥さんが横たわっている。

港内入口には、これらの島々を結ぶ巡航船のほか島めぐりの遊覧船の発着場があり、港内の美しい景色とともに興味深い海洋知識のガイドが、旅の印象を一層深いのにしたている。

なお、紀伊半島めぐりには、紀州の白浜、勝浦および鳥羽と利用すれば快適な旅が味わえる。また

e t c

さて、懇親会——料理の評判もまずまずで、酒、ビールはまことに豊富。これは有志多数の方々より、多額のご寄付を仰いだおかげでした。……誌上を借りて厚くお礼を申し上げます……

隠し芸もありました。ご存知の焼飯坂、談議も咲きました。ああ愉快ナリ、愉快ナリで延々約三時間近く、午後八時、次回の再会を約しながら散会の次第。

(東爪・菅) 昭和48年度阪神合同同窓会

出席者 (A B C 順)

- 深津薫、浜繁、畑和之、東爪佐七、長谷川好道、石垣留由、市川義雄、井上道彦、黒田俊夫、小池忠平、森本滝生、前野嘉治郎、中西勸、西村潔、中村之則、中島好康、中埜正光、大島居健次、押尾定夫、岡田紀代藏、岡崎武義、大石千民、大村守男、下川満、世古那須太、下川英之、菅恵治、佐藤磯幸、潮崎辰二、時岡信一、田嶋弘茂、高山逸治、富永恭夫、上山貞男、山本徳男、山本義明、山本義勝、吉村武男、山尾博一

春のワラビ採り、ハイキング、夏の海水浴、鳥羽商船の同窓会等の足場としても良い所にある。

利用料 船保の被保険者(一泊二食付) 五五〇円

// 被扶養者 六八〇円

// 小人(四才以上十才未満) 五三〇円

実費利用者 一、〇〇〇円(A記)

学校だより

前回以来のお知らせは

★海学祭

十一月二・三日の両日、恒例の海学祭が開催されました。二日は前日祭として、午前中はポート・レース、

午後は演劇、フォーク演奏などが行われました。三日は一般に解放されました。おでん、だるま食堂、喫茶ジュラシイなどに人が集ったようです。

★高専第一期生の国家試験の結果

九月に卒業しました高専第一期生の国家試験の合格率はあまりよくありませんでした。教官一同がっかりしています。同窓会の皆さんに日頃から御心配をかけていながらこのような状態で、大変申し訳なく思っております。学生諸君の奮起を期待しています。

★秋季講演会

十一月二十八日に北大名誉教授館脇操先生をお迎えして「北欧より南欧へ」という講演をお聴きしました。美しいスライド百二十枚を使ってのお話で学生一同深い感銘を受けました。

★遠足

十一月二十二日に高専となって始めて遠足が行われました。学生の強い要望で行われたもので、各クラス毎に目的地を選びました。行先はほとんど関西地方でした。

★海外からの視察団

十一月二十二日、東南アジアの

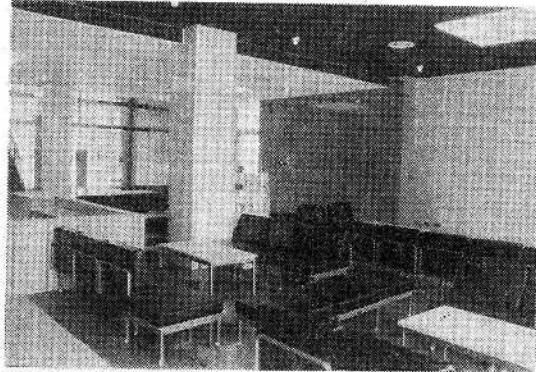
船員教育機関から視察団が来校されました。我が国の対外援助計画にもとづいて開設された「船員教育行政コース」に参加している海外技術員（ベトナム、フィリピンなど）で構成されていきました。

★海外出張（落合）

十一月二十九日から十二月八日まで、メキシコ・シテイで開催されました。国連およびWMO（世界気象機構）共催の「気象衛星資料利用による熱帯の気象」という会議に、メキシコ政府の招待により出席しました。会議終了後、アメリカに渡り、マイアミのハリケーン・センター、ワシントンのNASA、NOAA（アメリカ気象局）、サンフランシスコのカリフォルニア商船学校などに立寄る機会を得ました。

★図書館の新設

新館の右隣りに図書館が新設さ

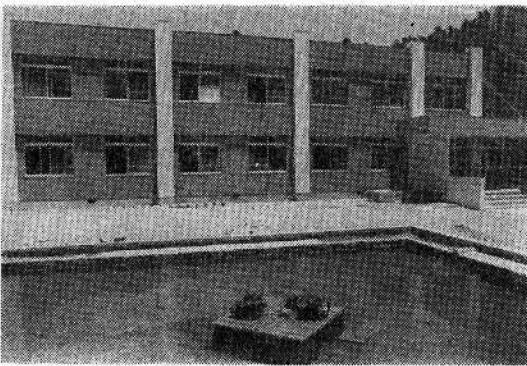


(図書館)

れ五月一日に開館されました。一階は学生主事室、学生課事務室、ホール、ゼミナール室三、視覚覚教室、同事務室、暗室、録音室、機械室が、また二階は図書館事務室会議室、閲覧室、書架、書庫という配置です。全館冷暖房で、高専の図書館としては最高と聞いております。ホールに同窓の田中英明さんから寄贈された絵が飾られています。

★記念講演会

図書館の完成を記念して講演会が開催されました。第一回は五月十日に東京商船大学の茂在寅男教授による「世界の商船学校を廻って」と題してユーモアたっぷりのお話を拝聴しました。尚二回目は五月三十日に学内から落合が「遠隔探査による映像情報」というお話をしました。そして第三回は六月十四日に西島同窓会長の「外国



(白菊寮)

旅行から見た日本」と題してのお話を拝聴しました。

★白菊寮の増築

高学年用の白菊寮が二十八室増築されました。北寮の西隣りに二階建てで完成しました。一室二名の定員です。

★エンジン・トラブル・シュミレーター

機関学科にエンジン・トラブル・シュミレーターが完成しました。計算機を使って種々の実験が行われています。

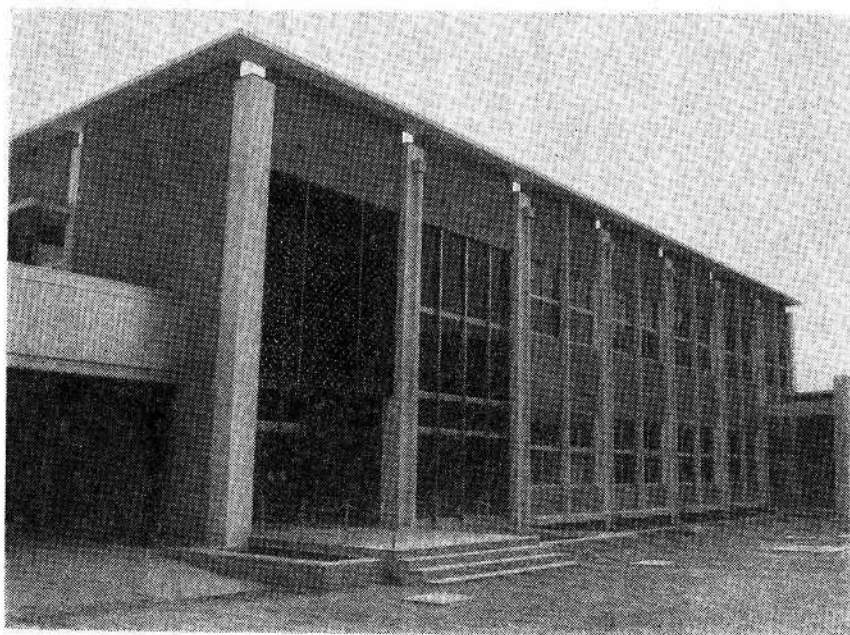
★オリエンテーション

三年生に対するオリエンテーシ

ョンが四月十九・二十日の両日、鈴鹿市の青少年スポーツセンターで行われました。また一年生に対するオリエンテーションは五月二十二・二十三日の両日同施設で行われました。

★高専体育大会

八月二十一日から二十三日まで岡山で開催されました高専全国体育大会に二十名の学生が参加しました。これらの学生は東海地区大会で優勝した者がほとんどです。遠征について同窓会から援助を頂きました。



(新装なった図書館)

昭18クラス会記

思えば永い三十年であった。昭和十八年春座学を修了し、練習課程へ進んだ百一名は、官立移管後の最初の入学生として、入学と同時に軍籍に編入され、僅か一年の練習課程を経て既に敗戦の色濃い戦場に迫立てられるようにして果立って行った。

敗戦までの僅か一五カ月の間に三分の一近い二八名が戦死してしまつた。未だ世間的な智恵も身につかざる二十才前後の若者には戦後の世情は苛酷とも言える状態であつた。乗る船も無く、身を処する場所も無かつた。

あれから三十年、今日ぞ鳥羽の地に級友が集つて来る。この春から三十年を記念してのクラス会を開催する話があつた。京浜、名四、阪神でそれぞれ世話人が動き本年度の同窓会の前日、即ち六月二三日に鳥羽シーサイドホテルに集ることゝなつた。

定刻、予定した参会者十七名が三十年前とはすっかり容相を変えた安楽島の一角、真珠島や坂手島菅島や桃取水道を一眺の下に眼下に収められるこのホテルに集合した。

入浴、浴衣に着替えて懇親会場へ記念撮影後、中西が世話人を代表して挨拶し、続いて戦没者の冥福を祈つて黙祷を捧げる。

じつと眼をとじれば、堀田の顔が浮び細野の白い清潔な歯が浮ぶ宮島のニキビはあの日のまゝだ、眼頭があつくうるんで来て終う。前野が出席出来なかつた級友の連絡を報告し、その後両先生のお話両教官共昔日の生徒姿を思い出されてか講義調で拝聴する方も神妙であつた。

鳥羽美人のホステスも加つて、酒宴の進む中で、出席者の近況報告となつたが何しろ三十年の歴史を一挙に話そうとするのだから座は喧騒、やがて校歌が部歌に変わり合唱となり「整列」がかゝり北岡週番の巡検があつてさしもの盛会も終りとなつた。

今夜の宿直教官は水谷教官。部屋に引揚げ静かになつたのは明け方三時に近かつたようだ。それにしても折角出席を楽しみにしていながら乗船中のため出席出来なかつた現役の諸兄には申し訳無かつた。明年は東京に

場所を変えて開催することゝなつたので次の機会に出席出来ることを祈つている。

鳥羽での三年間によき友を級友として持ち、よき先輩と後輩に恵れた幸せを一層新にしたのは私だけであつたらうか。(前野記)

出席者

- 小原・高安・竹内・中西勸、夏目、井上(内川)、小林、城山(植田)、山口、前野、福村、山本・前田・青木、北岡鳥村



二十年に一度の御遷宮を二旬後に控えて、その準備に追われる鳥羽市で、九月八・九日の両日、私共も二十年振りのクラス会を恩師をお迎えして開くことが出来ました。

越智教官御夫妻、杉山教官、山

素晴しく発展変貌した母校の施設を見て、今更ながら過ぎ去つた二十年と云う時の重みをずしりと感じました。明るく快適な生徒寮の中に入り、昨夜みんなで唄つたタンツ節が空しく消えて行く寂しさも味わいました。少しく健康

昭和二十六年卒業

航機クラス会開催

門教官、楠井教官を囲み、磯村、田中、伊東、松本、鈴木、伊藤、黒田、田島、中村、堀、加藤、殿村と、尽きぬ想い出話に、秋の夜長を思う存分語り明しました。翌朝は、近藤翁碑にお参りした後、

を害された谷口教官を御見舞して杉山教官宅にストームをかけてご馳走になり、次回を約して鳥羽に名残りを惜しみながら解散致しました。(記事・松本)

今日母校竣工記念の盛典に参列することの出来た事を心から嬉しく思います。思えば大正五年本校に入学してから五十五年の歳月は流れました。その間幾多の苦難がありました。何時も私を勇気付けました。幕末乱世の世に生を享けられながら冷静に西欧の学問を学ばれ之を後継者に諄々と説かれた先生の一生を思つて只々頭の下がるばかりであります。今日この盛典に逢ふことの出来るのも只管先

近藤真琴先生を思ふ

てくれたものは校歌であり、その歌詞の一つ一つに溢れる近藤真琴先生の愛国の至誠であつたと思ひます。

生の御遺徳によるものと感激かく能はざるものがあります。吾等同窓心を一にして先生の御遺志を継承申上げ度いものであると念願して先生の墓前を去りました。

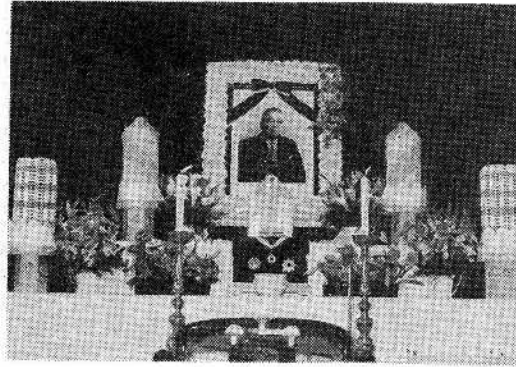
私は良い学校に学んだものであり、いつも母校との出逢いを喜び先生の御高徳に景仰申上げて参ります。

四七・九・一 T9E 矢田稔

故小山亮氏葬儀 弔詞並びに思い出

全船協小山亮前会長逝く

厳粛に協会葬を挙行



十一日密葬が目黒の自宅でしめやかに行なわれた。

× × ×

二月二十三日心配された前日来の雨もあがり快晴、葬儀関係者一同胸をなでおろす。葬儀所祭壇には、故小山前会長の最近の等身大の遺影が大きく飾られ、向って右側には田中内閣総理大臣をはじめ新谷運輸大臣、左側には中村衆議院議長、奥野文部大臣、田中自由民主党総裁のかたがたの生花が供せられたほかは、故人の意志によって辞退したため一般からの供花供物、花輪などは一つもなく、まことに前会長の人柄にふさわしいすがすがしさである。

故小山前会長は昭和四十八年二月九日午前六時、入院の東京都千代田区飯田橋の日本医科大学第一病院で直腸がんのため逝去された。行年七十八。同日午後、全船協本部において、緊急役員会を開き同氏が永年本会に尽されたご功績により、「協会葬」とすることがきめられた。葬儀及び告別式は、二月二十三日とし式場は東京青山葬儀所と決定された。

なお、「協会葬」に先だち、近親者によって二月十日お通夜、翌

部省関係者、海事関係諸団体、商船高専、船会社、全船協、郷里小諸関係の知名人多数、皆悲しみに包まれていたようだ。

莊厳なる雅楽吹奏裡に、朱の衣も鮮かに僧侶入場。定例一時から香河常務理事司会者となり開式の辞により葬儀が始められた。

葬儀は厳粛な中に、曹洞宗青松寺の六名の僧侶による読経に始まり、まず、杉本葬儀委員長が進み出て、一生を各方面に尽された功績がたたえられ、次いで運輸大臣から内航海運の発展と練習船建造に大きな力を尽されたこと、更に文部大臣より現在の日本育英会創設と商船高校を高専に昇格を實現させた功績等が称賛された。最後に、すべての友人を代表して元内閣総理大臣、衆議院議員岸信介氏が主として政治家としての長き交友関係の思い出を、特に戦時議会の予算委員会における活躍ぶりに及ぶとき、場内のそこかしこよりすすり泣く声一きわ高くなる。

また、その訃報に接した時の驚きを切々と語られ降壇すると式は最高潮に達す。なお、時間の関係で他の八氏の弔詞については、朗読は省略させていただきます、お供だけが行なわれた。

引き続き海上会員及び関係者から、五四〇通に及ぶ多数の弔電があったことが披露された。

そのあと、焼香に入り杉本葬儀委員長、喪主久之様をはじめとして、さく子未亡人、親族代表小山良三氏、運輸大臣代理、高林次官

文部大臣代理、村山次官、元総理大臣岸信介氏、日本海事財団会長若狹得治氏、日本船主協会会長代理吉田俊郎氏、弓削商船高等専門学校長本莊幸雄氏、海洋会会長村上行示氏、日本内航海運組合総連合会会長岩本勇氏、弓削商船同窓会長小川忠一氏等のご焼香に続いて、参列者一同がご焼香をするなかで、葬儀はとどこうりなく終了し、葬儀委員長及び喪主より参列者一同に対しお礼の挨拶があった。

なお、二時から一般告別式に移り、ご焼香の参列者を送迎すべく式場左右にご遺族、親族、全船協の葬儀役員、商船高専の校長等が列立するなかを、生前ご厚誼をいただいた大多数の方々が参列しご焼

香の列は、延々長蛇の列をなし約千名近くにも達した。特に、日本育英会創設時の関係者、戦時議会末期の院内政党護国同志会及び、商船高専昇格関係の方々の姿が人目を引いた。そして午後三時過ぎ厳粛裡に協会葬は盛儀に終わった。

葬儀終了後、戦前戦後を通じ故小山前会長の郷里における選挙参謀として、終始行動を共にされた親族の小山良三氏の全船協会員に対する感謝の挨拶があった。小憩後、ご遺骨のお婦りとなる。遺骨をだいた喪主を中心に夫人、未亡人、お孫さん二人の乗られた乗用車が全船協会員の見送る中を去りにここに、協会葬はすべて終了したのである。

(浅野記)

弔詞

社団法人 全日本船舶職員協会
葬儀委員長 杉 本 恒 記

維時昭和四十八年二月九日、元衆議院議員、前会長、相談役小山亮殿には、不幸病魔の冒すところとなり、日本医科大学病院に入院加療せられたるも、薬石効を奏するにいたらず、遂に、溘然として逝かる、哀惜悲痛の情極まりなく追慕の涙とどむるを得ず。噫々悲しい哉。

本日ここに、社団法人全日本船舶職員協会は、あなたのご生前のご遺徳を偲び、輝やくご功績を追懐し、積峯の恩恵を感謝し、恭し

く靈前に香を焚いて、謹んでお別れの詞を捧げます。

あなたは、わが国議会政治の黎明期に、自由民権の魁中江兆民先生のご高弟として有名な、衆議院議員小山久之助先生のご次男として、明治二十八年二月四日に東京麹町に生れ、父君のご逝去により六才にて、ご郷里である長野県小諸に帰られたのであります。

明治四十五年三月に小諸商工学校を卒業し、青雲の志を抱かれて上京され、父君が旧知の大隈重信

候に、「日本の将来は海外への発展にあり」と滔々と述べられ、候より学費を給せられて、自ら進んで鳥羽商船学校に、次いで弓削商船学校に入学し、大正七年に卒業して、国際汽船株式会社の世界一周航路に従事し、かの第一次世界大戦には、地中海・大西洋の航海において、敵潜水艦の襲撃をうけること四度におよび、また、印度の航海においては、ガンジールの独立運動に共鳴する愛国の青年を身をもって救われたのであります。

昭和二年に余暇を得て帰郷せられるや、同志を糾合して小諸町政革新会を結成し、昭和四年に農村疲弊の実情を眼の辺りにされるや断固として意を決し、世界七週の航海を最後に汽船会社を辞して郷土小諸の人となり、農村更生連盟を組織してその会長に就任されたのであります。

昭和七年三月に、同志に推されて社会民衆党候補として衆議員に立候補されたのであります。惜しくも次点で破れ、爾来専ら地方の開発と中小勤労者階級のために闘争をつづけ、昭和十一年に農村更生連盟を母胎として再び衆議院議員に立候補し、年令四十一才にて当選の栄冠を得られたのであります。

昭和十二年、十七年と連続三回当選され、農村振興議員連盟、教育振興議員連盟を創設して、教育優遇の途を拓き、昭和十七年には無所属で立候補し、最高点で当選

されたのであります。

太平洋戦争勃発するや、印度独立援助特務機関長として「ペナシ」に赴き、印度・ビルマ・シヤム・マレー・スマトラ・ボルネオ等を範囲とする、民心宣撫に効果を挙げられ、印度の志士チャンドラボーズをドイツから脱出せしめて、印度の独立工作に寄与されたのであります。

南方の任務より帰国されてからは、長年にわたって提唱された育英資金制度を、昭和十八年に大日本育英会として創設されるにあたり、創始者の一人として尽力されたのであります。

終戦後に追放に会われ、昭和二十一年九月に旭海運株式会社を創立して社長となり、二十四年四月に尾道造船株式会社代表取締役会長、二十九年五月より十年間東京急行電鉄株式会社の取締役に、そして昭和三十年二月の総選挙に衆議院議員に四選されたのであります。

同年四月に五島育英会理事、三十八年四月に内航海運問題懇談会座長、三十九年三月に、日本内航海運協議会会長に就任され、四十年十二月に日本内航海運組合総連合会顧問となられたのであります。

公的関係においては、昭和三十八年五月に運輸省海技審議会委員、三十九年三月に海運造船合理化審議会委員となり、四十七年まで内航部会長をつとめ、四十一年八月に日本海洋少年団連盟副会長に就

任されたのであります。

他方に、教育関係においては、育英制度創設準備協議会委員、奨学生推薦委員会委員、日本育英会評議員、高等専門学校審議会専門委員を各歴任されたのであります。

このように、寧日もなきご多端の時期に、本会が改称前の全国商船学校十一会は、戦災のために、神戸本部の建物を焼失したるままにて、その再建と熊勢の挽回を急務とする情況にあったのであります。

ここにおいて昭和二十六年八月の総会は、満場一致を以って、あなたの会長ご就任の懇請を決議し会長ご就任によってようやく戦前の態勢に復すことができたのであります。

比類のない卓抜したご識見と、雄大な実行力、常々自らを滅却して公に准するの精神は、忽ちにして一万會員尊崇の中心となられ、昭和三十九年には鉄筋三階建の神戸本部を完成し、昭和四十四年には遠大なる理想のもとに、全国商船学校十一会の名称を全日本船舶職員協会と改め、四十六年に本部を神戸より東京に移し、政府機関のご指導と友好諸団体との隔意なき相互の提携とにより、本会現在の発展を見るに至ったのであります。

近年に、あなたが最も意を注がれたことの如くに思われますことは、内航海運の育成と、技術革新に対応するための船員教育の問題

であったと存じます。

即ち船員教育こそは、わが国海運百年の基礎であり、政策よりも人であると考えた、あなたの高遠なご理想に根ざすものにて、特に商船高等學校五校を商船高等専門學校に昇格のことに關しましては昭和三十三年九月以来、実に十年のながきにわたって尽力され、昭和四十二年六月一日に、五校が同時に昇格し、開校式挙行の速報を手にされるや、商船高等昇格期成連盟会長として「われら畢生の願望ここに成る」と、国会及び政府を初めとする、関係五県（山口・広島・愛媛・三重・富山）県民のご尽力に対して、声涙くだる心かななる感謝の意を表されたのであります。

ただ一点心残りに思われますことは、ある日の報告に対して「自分が元氣になったら……」と、苦しき病床に身を起されて絶句された、仮称海技協会の問題がありましたが、時いたれば必ずや再燃することでありましょう。何卒静かに成行をお見守りください。

郷関を出でられて六十余年、建国の大政治家大隈重信侯のご薫陶をうけられて、七洋征覇を志し、一度貴農村疲弊の実情に接するや断乎意を決して政界の人となり、父子二代の衆議院議員に選ばれて克く一人一党を貫き、各時代を通じて滅私公に准せられたご功績は昭和四十年四月二十九日勲二等瑞宝章に叙せられ、本年一月三十日には、ご病床にあって旭日重光章

を受章されたのであります。

そして二月九日に無常幽明界を異にせらるる報伝わるや、従三位追賜の榮に浴されたのであります。ああ誰か天の無情を怨まざる、然りといえども、生者必滅会者常離は人の世の習はしにてあれば、本会一万の會員は、会長ご在任二十一年間のご薫陶に、学び培われました共に励み共に相携ゆるの道を堅持して本会の磐石に努め、以て国家の興隆、海運の発展に寄与いたしますことを、全會員を代表して、御霊前にお盟い申し上げ、御霊の永遠なる安らかをお祈り申し上げます。あまはむことを。

昭和四十八年二月二十三日



弔詞

商船高等専門学校五校代表

本 莊 幸 雄

小山先生のご霊前に、先生が弓削商船学校の出身者であられますご縁をもちまして、ここに全国商船高等専門学校を代表し、謹み敬まって哀悼の詞を捧げます。

先生は大正七年航海科第十三期生として弓削商船学校を卒業せられますや、国際汽船に入社せられた七洋雄飛の第一歩を踏み出されたのであります。そして幾春秋にわたる酷寒酷暑の洋上の生活は若き日の先生に、海洋に対する深い理解と船員に対する限りない思いやりの心を、はぐくまずにはいけませんでした。

かつて少年の日、先生は当時の政界の領袖大隈重信公より「政界の進出の志ありやいなや」をきかされたのであります。その時先生は即座に「志なし」と答えられております。

しかし、中江兆民の愛弟子であり、奇行にとみかつ正義の士であった厳父の血をひかれた先生は、新しい海運界を招来するには、ぜひとも政治の力の必要なることを痛感されたものと思われまします。

旺盛なる研究心と披山蓋世の氣迫は、いつとはなく政界に向けられていったのであります。父子二代の血とでも申すのであります。よ

うか、ついに昭和十一年二月衆望

をになつて故郷長野県より衆議院議員に立候補され、みごとに榮冠をかち得られたのであります。時に先生四十一才でありました。

以来昭和二十年十二月終戦を契機として一時中断はいたしましたものの昭和三十年には返り咲き、かくして三十三年四月辞任にいたるまで前後約十三年間、政界の第一線にあつて四面六臂の活躍を続けられたのであります。

幅広い先生でありましたので、各方面にわたつて多大のご功績を残されたのであります。ご活躍の中心はなんと申しましても海運界であり、それも晩年は海上で働く者を対象とした分野での業績が多かつたように思われます。

先生をこのように海事に駆りたてるに至りましたのは、先生と商船学校との結びつきが、そもそもの初めでありましたが、それには次のようなエピソードが秘められております。

先生は大正元年故郷の小諸商工学校を卒業せられますや、当時探險隊として勇名をはせた白瀬中尉らの壮挙に刺激せられ、海外雄飛のうつつ勃たる大志は、今や方寸にしまいおく術もなく、鳥羽商船学校の門を叩くに至つたのであります。しかしスパルタ式教育征伐の余波は退学処分まで発展し、つ

いに鳥羽をあとに瀬戸内海の小島弓削の商船学校に、身をよせることになつたのであります。ここで

は名伯楽小林善四郎校長のもとで先生のひとりは徹底的に磨き上げられていったのであります。後年小林校長に対する先生の追慕の情、並み並みならぬものがあつたのをみましても、校長と先生とのつながりのいかに深かつたかを物語るものであります。

若かりし日先生の心に育まれた海海上人に対する限りない愛情は、まず十一の商船学校の卒業生を一丸とする組織である、全国商船学校十一会の創設となつて現われました。先生はこの会の会長として、全員の福利増進、地位の向上等を図られると同時に、商船学校の発展にも多大の努力を払われたのであります。

そして技術革新に伴う船舶設備の高度化のもと、商船学校教育のレベルアップの必要性を痛感せられますや、いちはやく商船高等学校の高等専門学校への昇格を強調せられ、朝野にその必要性を認識せしめて、ついに昭和四十二年六月にその実現をみたのであります。

各校で行われた昇格式典に順次出席せられた先生のいとも晴れやかにして、満足気だつたお顔が今も眼前になつかしく浮んでくるのであります。そして祝辞の中で先生は高専昇格の苦心談として、地元の方々との交渉について述べられました。一見牢固として抜きがたい難問題も、先生の手にかかると快刀乱麻を断つ如く、いとも

簡単にかたづけられるという印象を与えられるのが常でありました。かくして商船高専の生みの親となられた先生は、同時に育ての親にもなられたのであります。すなわち先生は創立後も各校の行事に何回かつづつ参列せられ、整備の進捗状況をつぶさにみられては、それを次回の充実計画の資料とされるといったぐあいでありました。

創立の翌々年五校においては一億七千万円の校内練習船を各校揃つて建造できるという驚異的な予算が得られ、引き続いて目玉商品と称して時代に即応した高価な特別教育設備を、毎年造つてきておりますが、いずれも先生のお力添えによるものであります。

先生にお願いする過程としまして、一旦われわれのところでは年度の設備品目を決定し、それを先生にお話しお願いするのであります。すると先生は、その船舶における必要性から構造に至るまで納得のゆくまで徹底的に調査研究せられ、その上で予算担当者への説得資料を作り上げられたのであります。大きい政治力に加えて

そのご努力と熱情には、毎回ただ頭の下がる思いをした次第であります。

単に物だけではなく全寮制度を進めるために必要な人の問題などでも、先生のお力添えによつてい

るものが多くあります。

かくして今や全国五商船高専三千の健児は恵まれた教育環境のもとに、わが国海運のいな手とし

て朝な夕なに、研鑽の功を積んで

いるのであります。

先生の強調されましたあとを、今しづかにふり返つてみますと、常に世界における日本の現状と将来にかかわることが多かつたと思

います。高専への昇格問題、設備の問題など、どの一つをとつても、世界に伍してみ劣りのない有為な日本船員の養成という広い立場に立脚せられて、決して偏狭独善の立場に立たれなかつたのであります。

それ故にこそ、愛国の至情あふれる論となつて、聞く人の胸をうち首肯させずにはおかなかつたのであります。先生は、昨年神戸での同窓会を終えられましたその足で、弓削へお見えになり燈灘を一望におさめる高殿で豊潤な酒に心をやられ、学校では後輩の学生たち

「これは遺言ぞ」とたわむれながら諄々と処世の道を説き示されてあくことを知らなかつたのであります。今にして思へばこれが最後のご来島となつたのであります。

今先生のご霊前に立ちますとき万感こもごも迫り胸は悲しみの雲におおわれ、眼には涙の滂沱たるを禁じえませんが、ああ巨星おつ

の感ひとしおに深いものがあります。庶幾は先生の大いなるみ霊のあまかけり来て、われらの微哀を受けられますことをお願いして弔詞といたします。

昭和四十八年二月二十三日

生みの親育ての親

校長 谷川英一

私が小山先生にはじめてお目に
 かったのは、昭和四十六年広島
 商船高専の竣工式の前夜でありま
 す。ちょうど学校指定の旅館につ
 いて校長にご挨拶したとき、紹介
 されたのが小山先生でした。畑ち
 がいの商船高専の校長になった私
 には、当時まだ充分学校の事情も
 判らなかつたのですが、商船高校
 から高専への昇格、その後の施設
 設備の充実には小山先生のご援助
 があつた力があつたことは知
 っていましたので、ご挨拶申し上げ
 ましたところ、商船高専はこれ
 から発展させなければならぬとい
 だが一つ努力して下さいというお
 言葉をいただきました。

その後、弓削、大島、それに私
 の方の学校と、それぞれの竣工式
 のある度毎に先生にお目にかかり
 ましたが、自分の産んだ子が成長
 してゆくのを楽しんで、眺めてお
 られるような様子でした。

また商船高専に、エンジン・ト
 ラブル・シュミレーターが設置さ
 れることが決定した時には、全日
 本船舶職員協会の部屋でお目にか
 かり、またご病気で静養中昨年
 暮に、五商船校長とともに中目黒
 のお宅に、お見舞に参上したとき
 もお話は商船高専の将来について
 でありました。

先生はお若い時は海運界に、政
 界に活躍されましたが、晩年は十

一会の会長として、商船学校卒業
 生の団結に力を尽されたのですが
 五商船高専に昇格後からはその育
 成に力を注がれました。しかし商
 船高専の設備が充実した暁は、地
 域の船員の再教育に高専の設備を
 使って講習会などを開いてはとい
 うお話をうかがい、いつも船員の
 ことについていろいろお気をくば
 っておいでになることを知り、感
 激いたしました。この地域社会へ

人生の師匠

前衆議院議員 和田春生

の商船高専の貢献の問題について
 は、今後考うべき問題と思ってい
 ます。

商船高専の志願者が従来より減
 少の傾向にあり、日本人の海への
 進取の気象が減退することになれ
 ば、わが国の海運界の前途も暗澹
 とならざるを得ないことと考えら
 れます。

これらの問題について一度、小
 山先生のご意見をうかがいたいと思
 っていました。が、幽明境を異に
 した今ではそれもできず残念に思
 っています。先生のご冥福をお祈
 りしてやみません。

小山さんは偉大な先輩でした。
 一個の船乗りとして、あるいは海
 運人として私の先輩筋にあたる
 いうだけではありません。政治家
 として、また人生の師匠として、
 小山さんは、私にとって本当に
 よき先輩”でした。

戦後私が労働運動を志し、海
 員組合で血気にまかせて走りまわ
 っていたころ小山さんは、すでに
 社会的に大きな存在でした。

政財界に幅広く活躍されていた
 小山さんとは、各種の審議会など
 で、しばしばお会いする機会をも
 ちました。

そのたびごとに、なにか含蓄の
 ある話を聞かせてくださる小山さ
 んでしたが、もうかれこれ二十年

ほど前のことになりました。
 賃金問題で船員中央労働委員会
 の会合があつたときです。船主サ
 イドとして、社長の小山さんも来
 ておられました。が、休憩タイムに
 つかまり、小山さんにこういわれ
 ました。

その言葉は、いつまでも忘れま
 せん。

「キミたち組合の幹部は、いい
 気なもんだ。千円要求してタッタ
 百円しかとれなくても、ゼロの壁
 をぶち破り成果をたたかいたとた
 とかなんとかブツツてりゃいいんだ
 から。」

ボクたちは、そうはいかん。百
 円の差で商売を逃がしても、損は
 損。まして政治家は、たとえ一票

不足しても、落選すればそれまで
 だ。よくとつた、よくとつた”
 といわれてみても、当選と落選は
 天地の差、ダメなものだダメさ”
 その後、労働講座などで、私は
 この小山さんの話を、たびたび利
 用させてもらいました。

小山さんの言葉を、ただ言葉と
 して利用し組合のリーダーたちに
 話をするだけでなく、そのことに
 よって、私自身の戒めともしてき
 ました。口先だけのゴマ化して自
 分自身を偽っている大衆運動のパ
 ッコをみるにつけ、小山さんの言
 葉をまざまざと思い出すのです。

さて、労働運動一筋にと考えて
 いた私ですが、人生の因縁とは妙
 なもので、本当に図らずも小山さ
 んの後を追って政治の世界に出る
 ことになりました。

いまから約五年前、衆議院選挙
 に私が出馬とときまつたとき、一番
 喜んでくれ、そして親身に心配を
 してくれたのが、小山さんでした
 選挙に対して、小山さんの与え
 て下さった心づかいは大変なもの
 でしたが、私の一番感銘したこと
 は、ほかでもありません。

それまで、和田クン、和田クン
 ”といつも呼んでいた小山さんが
 ”和田サン”とサンづけに変わっ
 たのです。

そして、こんな話を人づてに聞
 かされました。小山さんは、こ
 ういわれたそうです。

「商船学校出の悪いクセで、先
 輩はいつも先輩ヅラをし、後輩に
 は、いつも後輩扱いをするが、選

挙は知らん人たちに候補者を売り
 こむんだ。推せんしたり運動する
 ヤツが、候補者よりエラそうな顔
 してつてうまくいく筈があるも
 ンか。まず、自分が候補者を尊敬し
 奉らなくちゃダメだ”と。

私は、その話を聞いて、本当に
 有難く心の中で泣きました。感心
 しながら、さて私とその立場で、
 果してそういうふうにいけるだろ
 うか？考えてみるにつけ、小山さ
 んのお人柄には頭が下がりました。
 私、その境涯に達するには
 まだまだのこと、大きな距離を感
 じている次第です。

ただ一つ、このことだけは、ほ
 とんど確かにいえると思えます。
 小山さんほどの人物を一旦は党
 にかかえながら、あいそづかしさ
 れるような社会党では、いつまで
 たつても責任政党として天下をとる
 わけにはいきません。

私もまた社会党から離脱しまし
 たが、その動機については、小山
 さんと共鳴するところが少なから
 ずありました。

私は、いま民社党本部の役員を
 しておりますが、小山さんは、最

近の民社党にも大変、こ不満でした。昨年末の総選挙で私は不覚をとりましたが、民社党の敗因を、小山さんは、早くから見通しておられたようです。

級友小山亮君の思い出

福永芳雄

鳥羽商船学校で小山と自分はクラスメートであり、逝去の時まで親交を続けていたので種々の思い出は沢山あるが、特に学生時代と海技免状の受験時の頗るつきの珍話があるが、紙面の都合上ここに学生時代の思い出を綴ってみよう。小山は学生時代から豪放磊落でその上頭がよく成績も頗る優秀であった。また頓智にたけており勉強家で本をよく読んだが、頗るスピーディに読了してゐるのに、要点は実に明確に把握していた。そういう頭の冴えた点、自分等はいつも感服していた。将来の国会議員としての要素はその頃から既に備えていたといえよう。

制裁

鳥羽商船学校に入学したのは明治の末年で、その頃は上級生の下級生への鉄掌制裁が横行して上級生に対する敬礼の仕方が悪いとか、態度が悪いとか等の些細な理由だけでぶん殴られたものであった。小山と自分は、体格が酷似し、ともに肩が張っているので威張っているような態度に見えたのかも知れぬ、しばしば制裁を受けた。「おーこ奴は小山ではなかつた」

それだけに、病床の小山さんに余計なご心配をおかけしたまま、とうとう永のお別れとなったことが残念でなりません。

た」と咬きながら殴られ損をした場合が幾度かあったが、小山も同様のケースが何度かあったのと、その後二人が、会合の度毎にこれの話を語り合い昔を思い出したものであった。

小山の頓智にて処罰を免がれる僕等の在学時代は、学校と寄宿舎の間は三キロ余りもはなれていて、朝夕隊伍を組んで往復していた。学校の部落より町の女学校に通学する女学生が十人位はあったらうか、道路はこの道一本だったから、しばしば行き合っていた。ところが、彼女らのうちの一人は、村長の娘とかで、別嬪ではあり、少々威張っておるような態度であったので、一度からかかってやろうではないか、と誰れいとうとはなしに吾ら仲間うちで話し合っていた。

ある日、われわれが下校の途中に、たまたま一人で帰宅中のその女学生に出会ったので、その女生徒の傘にインキをぶちかけると、少しは着物にもかかった様子、彼女は泣いて帰っていった。翌朝、その生徒の父である村長からわが学校に対して強い苦情の申し出があり、このような非常識な乱暴学生が附近にいては安心して娘を通学させられぬので、即時退校処分にしてくれとの申し出であったらしく学校側で緊急職員会議を開き早速生徒の下校時間に符合するの

で、小山と自分が校長室によげれた。校長室には教頭の他か一人か二人の先生が居たようであった。校長曰く：昨日下校の途中焼飯坂で女学生にいたずらをしたのは君等ではないか、その女生徒は傘や着物にインキをかけられ衣類をメチャメチャにされて泣き泣き帰ってきたそうである。

小山は答えて曰く：昨日自分達は、下校の途中は何事もなく予定通り寄宿舎に帰りました。最近、二見ヶ浦や、山田（現伊勢市）で鳥羽商船学校の制服、制帽を着用して乱暴を働いておる者があるらしい。いつかそいつ等を我々の手

小山君が鳥羽商船学校に入ってきたのは、明治四十三年九月航海科一年の補欠人学であったと記憶している。

当時の彼の印象は田舎者の多い我々クラスの中で、はぎれのよい東京弁、機敏な動作が目立っていた。けでなく、彼が時の大政治家、大隈重信侯が保証人であり、学費もまた、候からでているといううわさが一層はなやかな存在にして

で捉えたいと思っていた処であります。わが校の生徒にはそのような品性下劣な乱暴者は断じておらぬことを誓います。女学生にいたずらしたのはそいつの仕業と存じます。

校長曰く：僕もそのような品性下劣の者はわが校にはおらぬと信ずる。と同調してくれ、その後、校長は村長に対して我々の学生ではなかったことを強調して、この事件はうやむやに流れてしまつた。これも小山の頓智のよさを発揮しておる。

小山君のわが海運界につくした功績は、誠に甚大なものがあり、ここに喋々申すまでもなく皆様御諒承の通りで、その偉業後世につたえる為に関係各位皆様のご支援にすぎり、観音崎の船員慰霊碑の附近に胸像でも建立したいものとな念願しておる次第であります。

我々同級生はこの何となく頼もしい、洗練された雰囲気をもつ新生入生に一種の畏敬の念さえ抱き、逆に上級生からは生意気だと嫉妬まじりの鉄拳の「洗礼」を受ける機会も多かったようだ。「梅樹は双葉より若し」彼はわずか数カ月の間にたちまち頭角をあらわし三学期には級長に推され一年生の指導権を握っていた。

鳥羽商船時代の小山さん

江崎 広治

彼の実力はただ単に学力が優秀であつたばかりでなく、弁舌もまた、一際秀れていた。後年、国会に於て、時に与野党共に深い感銘を与えた。あの独特な人をひきづりこんでいく堂々とした語り口でしばしば我々を魅了したものであつた。

また彼、小山を語るに忘れてはならない事、それは腕力も人並みはずれて強かつた事だ。ガリ勉の口達者な「もやし野郎」ではなかつたのだ。ただし、体力にものいわせての暴力行為は絶対にしなかつたし、喧嘩もしたが和解の後には実にさっぱりとして、その相手と肝胆相照らす仲になつてゐる事が多かつたようだ。

こうした彼の人柄を如実に示すものとして在学中のエピソードの一つ御披露しよう。忘れもしない、一年生学期末試験のはじまって間もない午後だつた。その日は最上級の三年生が座学を終了、航海科は帆船に機関科は工場にそれぞれ実習生として派遣され、二年生が事実上の最上級生となつた時の事だ。

眼の上のこぶがとれた彼等は、過去の「うっぶん」を理不尽にも我々一年生に向けてきた。日く「今日から我々は最上級生だ。学校の伝統を守るため、態度の悪いものに制裁を加える」と予想通りトッブは小山、そして次々と主だったものが痛い洗礼を受けたものだ。我々の忿憤はその日の緊急クラス会で爆発した。伝統を守る

という美名のもとに理由なき野蛮な暴力行為を許すわけにはいかぬと衆議一決。小山級長を先頭に代表数人が生徒監に報告し、今後かかる暴力行為を禁止するよう申し入れた。しかし当時の風潮から推し、さして珍らしい事件とされず逆にたしなめられる始末だった。そこで小山君は決死の面持ちで、「この際学校及び上級生の猛省を促し後顧の憂いをなくすため我がが犠牲になってもやむを得ない。非常手段として学年末試験を放棄しよう」と皆に告げた。翌日が日曜日であったことも幸いして、大部分の生徒が二見ヶ浦駅まで歩き帰省を決行し月曜以降の期末試験は中止となった。学校側もまさかと思つたことの突発行動にはいささかとまどつたらしく、我々の処分については各種議論が百出したが結局、学年末の試験は四月に未試験の科目を受験させて合格者はそのまま進学させる。上級生の制裁等暴力行為は今後絶対に許さない。また一年生の行為は軽率妄動ではあるが事情酌量の上、今回に限り何等処分はしないという通知を受け我々は二年生の新学期四月に一年生のまま一年学期末の試験を受け、めでたく論争ができたわけである。

この事件があつてから以降は、我々は一度も上級生から理不尽な制裁は受けることもなくなつたし我々も決して下級生に手をくだすような事はしなかつた。今から思えばあの時の行動が最

善の策でもなく、決してほめられるものとはいえないかもしれないが、拳級一致での行動はなかなかできにくいものだ。それを敢て率先、火中の栗をひろい、一人の落伍者も出さずに無事要求を通すことができたのは、一重に小山君に負うところが大きい。彼の人間の魅力、秀れた統率力の才能をいかになく発揮した当時の出来事である。

その小山君が二年生の二学期も終りに近い頃突然退学することになった。我々は当時副級長をしていた彼が、何故学校をやめなければならなかつたのか真相は、知らなかつたし、彼もまたその理由は最後まで明らかにしなかつた。晩年彼が親しい友人数人との酒

小山亮君の思い出

高山 弥三郎

昭和四十八年二月九日に小山亮君の死が伝えられた。死亡する前に水道橋に近い日大病院に入院治療していた。病名は腸癌だったという事であつた。

病が痛とききいて是は厄介な難病だなあと感じた、惜しい有為な人であつた実に残念に思う。私と小山君の接触の始まりは前後二回ある。その初まりは鳥羽商船に入學して在学中のときと、もう一つは終戦後の混乱時代から少したち世の中が少し落ち着きを見せてきたとき、私達は東京付近に住むよう

席ではじめて「その後(弓削商船に在学中)鳥羽の新任校長、正戸為太郎君がわざわざ訪ねてくれて再び鳥羽にもどるよう説得されたが、私の行動が道に反していないことが分かつていただけただけでうれしかつた」とポツリと語つていた。詳しい事件は今だに知らない。しかし彼を惜む我々第二分隊の生徒全員が僅かな金を出しあつて日和山の茶店で送別会を開いた。その時の記念写真が今でも手許にあるが、これを見る度にあの当時は何故彼が一人で、学校をやめなければならなかつたかを煩悶し、胸のつかえがこみあげてくるのを覚えてならない。

もう六十年余もたつているのに

代の校舎で、私等の時は寄宿舎として使われていた。この土俵は食後によく使つて角力をとらされたものだ。大会には在籍の全生徒が参加し予科甲機一年生・二年生から三年生と順番に番付が発表され、その通り角力大会は進行した。

私と小山は航海科の一年生であつたと記憶している。年齢は十六・七才で元氣一杯だつたと思ふ。行司は松田弥十先生で体操と技業を受持つておられ、仲々やましまし先生であつた。大会の角力は順々に進行し、私達のとる番となつた。

この日の観客は、前に書いた近隣の人の外、鳥羽町に只一つしかない技芸女学校があつて、この学校の生徒も角力場の裏山にある密柑畑の中から見物している。若い私等は緊張している。力一杯ぶつかり合つたが勝負は互角の力で長引いた。

そのうち私の禰が緩んだので松田先生が大声で待たされた。禰を締め直して再び戦い始めたが、勝負は容易に決しない。長い角力となつた。そのうち私の禰がまたとけた。さあ大変だ。私はゆるんだ禰を手にし他の手、で性器を押え顔を真赤にして寄宿舎の寢室に逃げ込んだ。そのとき野次馬がわつと大声で立派なものを持つているなあ、と盛んに野次がとんだ。私は今度は禰がとけないようにしっかりと直して土俵の上に現

われた。そして二人は三度目の勝負をしたがどちらが勝つたか、長い五十年以上もたつた今では忘れてしまつた。

その次の出合いは、次のようなものである。私は独身時代からもとの日清汽船にはいり、中国沿岸と揚子江航路の船に乗つていたので二十年の間お互に消息をたつていた。その間の事情は何も分らなかつたが、終戦後、私も日本に引揚げてきて東京近郊に住むようになつて、我等同級生は江崎広治君の家によく招待されて集まり、釣好きの江崎君が観音崎の沖合で釣つてきた大きな鯛をご馳走になつたものである。今は手料理の上手だつた江崎夫人も、また、小山君もあの世の人となり、私等の周辺は寂しくなるばかりである。

寄付金受入

(四七・八・一より四八・七・末まで)

- 一〇、〇〇〇円也
- S 19 N 森田武雄氏
- S 22 N 木学忠雄氏
- 五、〇〇〇円也
- S 18 N 井上文男氏
- S 22 N 米田 実氏
- 三、〇〇〇円也
- T 13 E 金久要蔵氏
- S 10 E 駒田秀男氏
- 五〇〇円也
- S 2 N 加藤元三氏
- S 3 N 佐野房雄氏